

国立大学図書館協会近畿地区協会 平成 30 年度 各館の特色ある活動報告

滋		賀	大	学
滋	賀	医	科	学
京		都	大	学
京	都	教	育	学
大	都	工	織	学
大		阪	大	学
兵	阪	教	育	学
神	庫	教	育	学
奈	良	戸	大	学
奈	良	教	育	学
和		女	子	学
奈	歌	山	大	学
国	良	先端	科学技術	大学院
立	国際	日本	文化	研究
国	立	民族	学	博物館

平成 31 年 4 月 22 日（月）

平成 30 年度

滋賀大学附属図書館の特色ある活動報告

滋賀大学附属図書館の概要

本館	:	場所	彦根キャンパス（経済学部・データサイエンス学部）
		蔵書	386,558 冊
		入館者数	167,361 人
教育学部分館	:	場所	大津キャンパス（教育学部）
		蔵書	261,330 冊
		入館者数	81,127 人

企画展示

1. 所蔵貴重書の公開展示（彦根キャンパス）

所蔵資料の調査及び評価のもと、一部貴重資料を展示ケースで解説付きで公開。春学期は近代統計の父とされるケトレの著書を、秋学期は教育改革実践者と知られるフランソワ・ギソウの自筆書簡を展示した。



2. 第 32 回教科書展の開催（大津キャンパス）

明治初期から昭和戦前期までの近現代日本の教科書のあゆみを振り返る「教科書展」（昭和 60 年～）を本年度は「『割合』を通してみる算数教科書」をテーマとして行った。（9/25-10/18）



3. 個別企画展示の実施（彦根・大津キャンパス）

「Welcome to the Library 新入生にお勧めの本」、「論文・レポートに関する図書」等、時宜に即したテーマで実施し、図書館員のアイデアと多種多様な蔵書を活かした企画展示を行った。

《展示テーマ》

「新しいこと、始めよう」「教育実習に向けて」「図書館の中の人がおすすめる本」「日本人とノーベル賞」「タイ北部山地民モン族の刺繍—タイ協定校との交流」「先生がみなさんにおすすめする本」「人口知能(AI)に関する本」「恋愛に関する本を集めてみました」「論文作成に役立つ図書」「教育実習に向けて」「学生が選ぶ一冊」「旅に出かけたくなる一冊」「滋賀を知る」など

講習会

1. 情報リテラシー教育（彦根・大津キャンパス）

1 年生必修科目「大学入門セミナー」の一環として、「図書館情報リテラシー」を開催。図書館利用の概略、図書・文献情報検索の基本的知識、資料の入手方法について OPAC、CiNiiBooks の使い方実習を交えてレクチャーを行った。（4 月中旬～5 月中旬）また、新入学の大学院生・専攻科生向けには別途利用説明会を開催した。

2. デジタル教科書利用講習会（大津キャンパス）

デジタル教科書の多くのコンテンツ、機能について講習会を実施し、レポート作成、教員採用試験対策の支援を行った。（5/25）

3. CiNii 講習会（大津キャンパス）

CiNii Books を使った図書の検索・入手方法、他大学所蔵図書の検索、取り寄せ方法について講習会を行った。（6/19、6/21）

4. 10 分ガイダンス開催（大津キャンパス）

図書の探し方、雑誌の探し方、CiNii 図書検索の仕方など、ポイントを絞った基本ガイダンスを集中的に開催。（10/29～11/1 各日 2 回開催）

5. 国立国会図書館関西館利用ガイダンス（大津キャンパス）

国立国会図書館関西館から講師を招へいし、関西館の利用方法や国立国会図書館の資料検索方法について講習会を開催した。（11/7）

＼10分でわかる／
ガイダンス

こんなことはありませんか？

- ✓検索した図書がどこにあるかわからない
- ✓本は大量交付と確認はよくわからない
- ✓復写依頼をしたらキャンセル案内のメールが来た
- ✓CiNiiで検索は出来たけどその先どうしたら…

これらについてわかりやすく10分で説明します！

場所 ブラウジングルーム 予約不要
開始時間前にお越しください

曜日	月	火	水	木
合計	10/29	30	31	11/1
14:30～	図書の探し方 ～1階～	図書の探し方 ～2階～	CiNii 論文検索	CiNii 図書検索
16:10～	図書の探し方 ～2階～	雑誌の 探し方	雑誌の 探し方	図書の探し方 ～2階～

おきいにもおススメです！
気軽に参加していただけますのでぜひ足をお運びください
国立大学附属図書館教育学分館

イベント

1. リユース本の活用（彦根・大津キャンパス）

教職員から提供された不要図書、図書館からの除籍図書など、不要となった図書の持帰りイベントとして、本館では「附属図書館図書リユース市」を開催（10/30～11/1）、教育学部分館では「リユース本コーナー」を設置し（11月下旬～12月）、図書館利用者の関心をより一層高めた。



2. 古本募金の取り組み開始（彦根・大津キャンパス）

読み終えた本等を本学が指定する業者に提供し、その買取り金額が学生図書充実のための寄附となる「古本募金」の取り組みを開始。大学教職員、学生、保護者等に広く周知し、附属図書館からの除籍本を含め、寄せられた古本による30年度の寄附金は、教育学部附属学校園へ贈呈され、児童・生徒の図書購入に充てられた。

3. 図書館クイズラリーの開催（大津キャンパス）

新入生をはじめ、多くの学生に図書館を身近に感じてもらうため、図書館クイズラリーを実施。図書館用語、図書館全般の情報、蔵書検索の方法、図書館の利用案内などをクイズとして盛り込んだもので、誰でも気軽に参加でき、クイズを解くうちに図書館の利用の仕方がわかり好評を博した。景品には図書館オリジナルブックカバーを用意し、こちらも大好評。（4/3～4/20）



その他

1. 文献取り寄せサービスの費用支援（彦根・大津キャンパス）

卒業論文・修士／博士論文作成およびゼミでの研究発表等への支援として、学部生・大学院生を対象に、他大学図書の取り寄せや論文等の複写物の取り寄せにかかる費用を大学が負担する応援キャンペーンを実施した。

2. デジタル化資料送信サービス（彦根・大津キャンパス）

国立国会図書館のデジタル化資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を図書館の館内で利用できるサービスとして、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを提供し、利用者の利便性を図っている。

3. 職場体験（彦根・大津キャンパス）

彦根市内・大津市内中学生の職場体験学習を受入れ、地域教育組織が推進している中学生チャレンジウィーク事業との協力連携を図った。（7月、11月）



4. リポジトリ移行（彦根・大津キャンパス）

本学学術情報リポジトリをクラウド型の機関リポジトリ環境提供サービス「JAIRO Cloud」に10月に移行した。またパーマネントリンク（固定URL）も継続して使用し、利用者の利便性を考慮したうえで研究成果の発信を推進している。

平成 30 年度 滋賀医科大学附属図書館 特色ある活動

重点領域 1：知の共有：＜蔵書＞を超えた知識や情報の共有

● 教育研究成果の発信・オープン化支援

- ・ 国際オープンアクセスウィークに連動して、機関リポジトリ「びわ庫」登録を呼びかける学内向け広報を初めて実施した。1 講座および 3 名の教員から計 16 件の新規登録依頼を受けた。
- ・ 研究成果発信支援の一環として昨年度に続き研究推進課・図書館共催「研究倫理教育研修会」を 2 回実施した。

第 1 回 (H30. 7. 25)
研究者に求められる発表倫理
不正のない論文発表のために
講師：山崎茂明氏
(愛知淑徳大学名誉教授)

第 2 回 (H30. 11. 22)
研究者のための画像処理と
施してはいけない画像処理
講師：湖城恵氏
(株) エルピクセル



- ・ 研究推進課に協力し、学長裁量経費による研究助成（若手萌芽研究）成果発表ポスター展示を図書館内で実施した（H30. 11. 15～12. 10）。

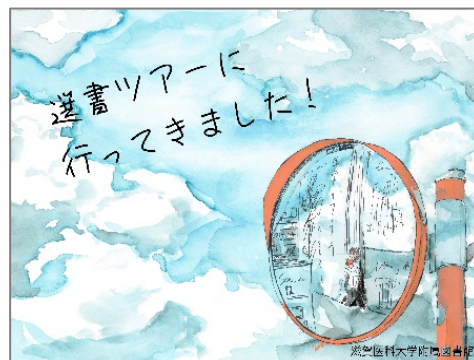
● 電子ジャーナル整備

- ・ 図書館備付外国雑誌 WG（附属図書館長を委員長に教員 9 名で構成）のもと、全講座対象にポイント制希望アンケートを実施し、アンケート結果と論文単価等を考慮して契約電子ジャーナルを毎年選定している。今後の整備方向性について検討するため、全構成員を対象に「海外電水ジャーナル整備状況満足度調査」（Web アンケート）を実施した（H30. 10）。

重点領域 2：知の創出：新たな知を紡ぐ＜場＞の提供

● 学生選書ツアー

- ・ 選書に学生の視点を取り入れ図書館に親しみを持ってもらうために昨年度に続き「学生選書ツアー」を実施した（H31. 2. 22）。
- ・ 選書をもとに参加学生と協働で POP・ポスター作成、図書展示を予定している。



＜学生による図書展示ポスター＞

● 図書展示

- ・ 教職員との連携、学生協働、学内イベント・セミナー連携、他機関連携などにより多様なテーマでの図書展示を年間通じて実施している。平成 30 年度は計 14 回実施した。（*はミニ展示）

「本学教職員がすすめるこの本 2018」

「准講会コラボ企画：先生の書斎から～今伝えたいメッセージ～」

「選書ツアーに行ってきました！」

「リレー・フォー・ライフ関連図書」

学園祭「若鮎祭」講演者著作展示（上野千鶴子ほか）

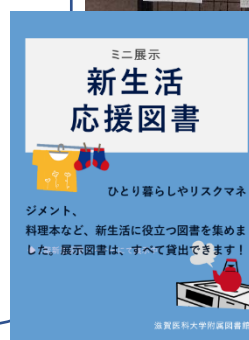
「第 11 回国立女性会館（NVEC）所蔵図書展示」

「旅に出たくなる」「本でふりかえる平成時代」

「新生活応援」「科研費申請応援フェア！」

「研究倫理・発表倫理」「画像処理関連図書」

*「SPSS」



重点領域 3：新しい人材：知の創出

● 情報リテラシー教育の実施

- ・ 医学部医学科・看護学科・大学院の授業と連携し、各レベルに応じた情報リテラシー教育を実施している。また附属病院各部局（看護部・薬剤部等）の要望に応じ現職医療従事者向けにも検索講習会等を実施している。

オリエンテーション

- ・ 新入生/編入生オリエンテーション（4 月・10 月）
- ・ 臨床実習（医学科 5 学年）オリエンテーション
- ・ 看護師特定行為研修生オリエンテーション

学部生（1 学年・3 学年・5 学年）対象

- ・ 情報科学（医・看護学科 1 学年・講義）
- ・ アカデミックライティング（医学科 1 学年・講義）
- ・ 医学英語（医学科 3 学年・講義（英語論文検索））
- ・ 看護学科文献検索講習会（3 学年全員・ゼミ単位 計 17 グループ）
- ・ 神経内科臨床実習 文献検索講習会（医学科 5 学年・計 23 グループ）

修士・博士課程対象

- ・ 医学総合研究特論（医学専攻博士課程・講義）
- ・ 看護学研究方法論 I・IV（看護学専攻修士 1 年・講義）

現職医療従事者対象

- ・ 看護部研修会（4/25・5/17・6/28）
- ・ 薬剤部 UpToDate 講習会・Lexicomp 説明会

その他 ・ UpToDate 利用講習会 ・ ぷち講習会（PubMed・医中誌 Web・Scopus 等）毎週火・木（予約不要）

● 日本医学図書館協会での活動

- ・ NPO 法人医学図書館協会（JMLA）の諸活動を OJT の一環と位置付け積極的に参加している。平成 30 年度は診療ガイドライン WG・NLMC 日本語版 DB 作成 WG・『医学図書館』編集委員に参加。

京都大学図書館機構

国立大学図書館協会ビジョン 2020 に基づく平成 30 年度の活動状況

1. 知の共有：学術情報基盤の整備

1.1. オープンアクセス推進事業プロジェクト

第3期中期計画の重点実施事業「京都大学重点戦略アクションプラン（2016-2021）」の一つに採択された「オープンアクセス推進事業」について、以下の取り組みを行った。

(1) 学術情報リポジトリ「KURENAI」による研究成果の公開

- ① 「オープンアクセス説明会」等の京都大学オープンアクセス方針とリポジトリ登録手順等を周知する説明会の開催した（計7回）。
- ② オープンアクセス方針の対象論文を KURENAI に登録申請するための「リポジトリ登録システム」を改修してメール送信機能等を追加した(2018年9月)。
- ③ リポジトリ論文の国際流通性向上のため、KURENAI 英文登録情報を充実させた（英文抄録の追加: 3,061 件）。
- ④ 本庶佑京大特別教授のノーベル賞受賞に伴い、10 月中に関連論文リンク集をウェブサイトで公開し、6,795 件のアクセスがあった（2019 年 4 月 1 日現在）。
- ⑤ オープン・アクセス・ウィーク 2018 の期間中(10/22-10/26)、館内にオープンアクセス特設相談カウンターを設置するなどオープンアクセスの周知に努めた。
- ⑥ 1916 年(大正 5 年)創刊の史学・地理学・考古学の総合学術誌である「史林」の公開を開始した。バックナンバーも 50 年分（51 巻 1 号（1968 年 1 月）以降）を公開し、今後 1 巻から 50 巻も追加する予定である（2019 年 3 月 28 日）。
- ⑦ KURENAI 登録件数（2019 年 3 月末現在）
累積：182,086 件（うち学位論文要旨のみ：18,267 件）。

(2) 貴重資料等のデジタルアーカイブ

- ① 2018 年 4 月に、京都大学附属図書館が所蔵する医学分野の貴重資料コレクション「富士川文庫」全点の電子画像を、京都大学貴重資料デジタルアーカイブで公開した。さらに平成 30 年度中に新たに電子化・公開した資料は、蔵経書院文庫、韓国古文献資料他合計 778 点に及んだ。
- ② 2018 年 7 月に、京都大学が所蔵する貴重な古典籍資料のデジタル化・公開を進めるため、「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金」を設置した。寄せられた寄付金をもとに、天皇即位の儀式が描かれた中井家絵図 4 点を電子化し、2019 年 3 月 29 日に公開した。
- ③ デジタルアーカイブコンテンツの利用促進のため、他機関との連携を推進した。
 - 2018 年 9 月に、京都大学貴重資料デジタルアーカイブで公開する経典資料に SAT 大蔵経 DB（大正新脩大蔵経テキスト部分 85 巻の全文検索サービス）へのリンクを記載した。

- 2018 年 9 月に、慶應義塾大学メディアセンターと「富士川文庫デジタル連携プロジェクト」を実施して「富士川文庫」の画像データを統合表示する試行ウェブサイトを公開した。また、2019 年 2 月には東京大学の「富士川文庫」もプロジェクトに加わった。
- 2019 年 1 月に、谷村文庫 265 タイトルから国文学研究資料館蔵書印データベースへのリンクを記載した。
- ④ 2018 年 4 月、京都大学貴重資料デジタルアーカイブの公開画像数が 1 万タイトルを突破し、また 12 月には 100 万画像を突破した。2019 年 3 月 31 日現在、13,522 タイトル、1,157,922 画像を公開しており、二次利用自由の画像を提供する図書館・室は、附属図書館、吉田南総合図書館、大学院理学研究科各図書室及び理学部中央図書室、基礎物理学研究所に拡大した。

1.2. 研究データ管理支援

(1) 研究データ管理支援の検討と取り組みの開始

- ① 桂図書館での研究データ管理支援業務の検討のため、工学研究科オープンデータ検討ワーキンググループを立ち上げた。
- ② 研究データの公開を支援するためのウェブページを公開した（2019 年 2 月 22 日）

(2) 取り組みの広報

- ① 京都大学附属図書館研究開発室セミナー「研究データ管理と大学図書館－北米大学の事例を中心に－」を開催した（2018 年 6 月 11 日）。
- ② 図書館総合展「大学における図書館と研究支援・情報部門との戦略的な協働と連携－書籍ポータルサイト運用を通じた実践的な協働事例－」にて、著者名典拠を活用した「新刊情報ポータル」について、事例発表した（2018 年 11 月 1 日）。
- ③ 京都大学図書館機構講演会講演会「オープンサイエンス時代の大学図書館－これから求められる人材とは－」（平成 30 年度国立大学図書館協会近畿地区助成事業）を開催し、図書館や図書館員がオープンサイエンスにいかに関与するかについて議論した（2019 年 2 月 13 日）。

1.3. 電子書籍の利用促進

(1) 試読サービスの実施

平成 29 年度に策定した「学生用図書整備計画」に従い、全学的に必要な度の高い電子書籍を整備するため、Maruzen eBook Library および EBSCO Academic Subscription Collection の試読サービス、ProQuest Ebook Central の Mediated DDA サービス、Kinokuniya Digital Library (Kinoden)からのリクエスト受付を実施した。

(2) デジタルブック展示の実施

電子書籍にまだなじみがない来館者への視覚的アピールと利用促進を目的とし、デジタルブック展示を開催した（2018 年 11 月 27 日～12 月 27 日）。大学院生や図書館職員推薦の電子書籍合計 260 タイトルをデジタルサイネージで紹介するとともに、紹介文と電子書籍にアクセスできる QR コードを記載したカードを配布した。

1.4. 全学導入データベースの見直し

(1) 利用実績による見直し

平成 29 年度までの利用実績に基づき、利用件数が多いデータベースは同時アクセス数を増やす、利用件数が減少したデータベースについては契約を中止する等の見直しを実施した。

(2) 学内アンケート調査の実施

今後のデータベース整備の基礎資料とするため、学内の各部局に対し全学導入データベースに関するアンケート調査を実施した（2018 年 12 月～2019 年 3 月）。

1.5. 寄贈雑誌のオープンアクセス調査

附属図書館で受入中の寄贈雑誌について、オープンアクセス状況を実施し、調査結果に基づき寄贈雑誌受入を見直し、347 タイトルを受入中止した。また、調査結果を NII の ERDB-JP に反映させ、データの充実を図った。

2. 知の創出：図書館サービス機能の改善

2.1. 桂図書館の着工

2020 年春の開館に向け、新営工事が進行中。「エリア連携図書館」として、研究データの保存・発信機能を持ち、研究支援を促進する研究支援型図書館の運営・サービスについて検討を行っている。

2.2. 文献取り寄せサービス（私費）の現金収納業務の委託開始

2018 年 4 月から、私費による文献（複写及び貸借）取寄せの現金収納に関する業務委託（京都大学生協）を開始した。これにより図書館の開館中なら夜間や休祝日でも受取りが可能となり、また釣銭も受け取れるようになるため、サービスの利便性が向上した。また、図書館側ではカウンターでの現金取扱に伴う領収書発行業務を減らすことができ、当該サービス全体の効率化を実現した。

2.3. 名誉教授証の IC カード化

平成 30 年度から授与される名誉教授証が IC カード化されたことにともない、人事担当課及び情報環境機構の協力のもと、特段の事前手続きなく当該カードをもって名誉教授が図書館利用証として使用できるようになった。これにより個別のカード発行等の事務作業が不要となり大幅な効率化が実現した。

2.4. 研究支援

(1) 大学院共通科目「学術研究のための情報リテラシー基礎」の開講

大学図書館が行う研究支援として、平成 30 年度新設の大学院共通・横断教育科目「学術研究のための情報リテラシー基礎」の一部、「学術研究のための大学図書館利用と情報探索、情報発信」の授業を附属図書館研究開発室が担当した。

(2) オープンアクセス誌への投稿等に対する注意喚起を実施

大学院生対象の共通科目や新採用教員研修会、図書館講習会等で、若手研究者や大学院生等に対しオープンアクセス誌の評価に関する説明やハゲタカジャーナルに対する注意喚起を計 15 回行うとともに、図書館機構のウェブサイトでも注意喚起を行った。また、関連部署（研究推進部、URA）と情報共有を行った。学内研究者へ周知するため、注意喚起のリーフレットを配布した。

(3) 研究成果発信に係る講演会・講習会の開催

セミナー「eBook における研究成果発信と評価：電子時代の英文書籍出版について考える」（2018 年 6 月 22 日）の他、外部講師を招いて論文執筆や投稿といった研究成果発信のための講習会を 8 回開催した。

2.5. 学習サポートデスクスタッフによるピア・サポート

附属図書館ラーニング・コモンズ内に設置している学習サポートデスクスタッフの企画として、より学生のニーズに近いテーマを取り上げる講習会を 36 回開催した。

2.6. 視覚障害学生への学習支援および国民の読書バリアフリーへの貢献

学内読書バリアフリー環境の整備と国立国会図書館を通じた国民への貢献を図るため、学内予算措置により、視覚障害学生に提供する資料のデジタル化を進めると共に、国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスへのデータ提供準備を行った。

2.7. 「古典オーロラハンター IN 京都」の開催

国文学研究資料館等と共催して、古典籍を読み解く市民参加型ワークショップを開催した（2018 年 11 月 1 日）。

2.8. 貴重資料公開展示の開催、学術シンポジウムの共催

高麗大学校、京都大学人文科学研究所、附属図書館の協定事業の成果として平成 30 年度京都大学図書館機構貴重書公開展示「韓国古典籍の世界」を開催した（2019 年 2 月 19 日～3 月 3 日）。また、日韓の研究者によるシンポジウム「韓国古典籍の世界－京大河合文庫目録刊行記念シンポジウム－」を共催した（2019 年 2 月 21 日）。

3. 新しい人材

3.1. 職員の海外派遣

2019 年 1 月から 2 月にかけて、学内の海外派遣プログラムにより、図書系職員 2 名をドイツとオランダに派遣し、研究データ管理及びデジタルアーカイブに関する先進事例の調査を行った。

3.2. データ管理教材の試行利用に参加

NII 及び JPCOAR による「研究データ管理サービスの設計と実践」の試用プロジェクトにモニター機関として参加し、約 20 名の図書館職員がオンライン教材を受講した。

平成30年度 京都教育大学附属図書館 特色ある取り組み

1. 図書館利用・読書啓蒙の働きかけ

平成27年より「わくわく！KYO²ライブラリー図書館活性化プロジェクト」をスタート。

図書館に行こう！→図書館を知ろう！→図書館で過ごそう！→図書館を使おう！→図書館をひろげよう！

●「図書館に行こう！」（＝親しみやすい場所にする）

➢ ライスボールセミナー「それはかなう夢講座」の後援

年5回開催、先着30名におにぎり2個とお茶を配布

➢ 中庭コンサート

「器楽基礎演習」の授業成果発表（6月14日）

➢ 就職担当部署との連携

- ・就活ゼミ、就職セミナーを研修・セミナー室で実施
- ・教採セミナー等で学修支援員を案内

●「図書館を知ろう！」（＝学生との距離を縮める）

➢ 学修支援員の配置（平成27年10月～継続）

理科、数学教育の大学院生をラーニングコモンズに配置。学期中の月～金の放課後

➢ 読書キャンペーン（10月～2月）

コメント（400～600字程度）またはポップを書いて提出。優秀作品には賞。

➢ リクエストの強化

☆ 話題書の購入「リクエストと投票で話題の本を読もう」（8月、2月を除く毎月）

学術研究教養目的以外のリクエストおよび図書館員が選定した新刊、話題書等を対象に利用者投票。得票数の高いものを購入。15万円／年を予算措置。

☆ 選書ツアー（ブックハンティング）の実施

2回実施 上回生、院生中心に7名参加 74冊 購入

☆ 通常リクエスト

前年比1.4倍となる119件のリクエスト

●「図書館で過ごそう！」（＝館内の環境整備、サービス向上）

➢ 日曜開館の試行

試験期の日曜日を開館 7月22日、7月29日（台風のため休館）、8月5日、2月3日（平均117人/日）

➢ 入館者数の増加（一日平均300人を目標）

平成30年度 89,445人/年 261日開館 342.7/人日 前年比 107% 平成26年度比 143%

●「図書館を使おう！」（＝資料・施設の利活用）

➢ ILL 借用図書の館外持ち出し

研究上必要な借用図書について、館外持ち出し対応開始。

➢ 図書展示

- ・ミニ展示 カズオ・イシグロ展（4/2～5/14）
- ・加古里子（かこさとし）さん 著作コーナー（6/5～6/30）



・保育士試験対策コーナー（6/25～7/2）

➤企画展示室等の利用による展示等の開催

学生や教職員による教科・学習研究等に関連する企画展示：13 件

●「図書館をひろげよう！」（＝他館、他部局等との連携）

➤京阪奈三教育大学との連携

合同研修（11/29 於：京都教育大学）、現物貸借無料化、双方向遠隔授業パスファインダー

➤府立図書館との連携

平成 30 年度実績：貸出 99 件、借受 44 件）

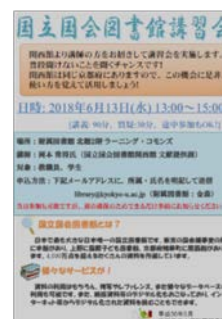
2. 利用者教育

●新入生図書館ガイダンスの実施

全新入生に対し、専攻別に図書館の利用方法、論文検索方法等を説明した。（4～7 月 全 13 専攻 327 名）

●各種講習会の開催

- ・図書館レベル別講習会
- ・オーダーメイド講習会
- ・国立国会図書館講習会（6 月 13 日（水））



3. 地域貢献

●うたとおはなしの会の開催 幼児教育科と共催（定員 130 名）

- ・4 月 28 日（土）158 名参加 同日開催のワークショップ「こいのぼりを作ろう」70 名、追加公演 14 名
- ・12 月 15 日（土）156 名参加

●第 2 回絵本と人形展～おはなしの世界へようこそ！～

4 月 16 日（月）～4 月 28 日（土）「うたとおはなしの会」第 30 回記念 主催：幼児教育科、協力：附属図書館

●読み聞かせ会「えほんのもり」の開催

幼児教育科の学生によるよみきかせ、絵本カードの作成、今月の絵本紹介など。

於：児童書コーナー、毎月第 1、3 月曜日（4、12 月を除く）

●第 2 3 回教科書展の開催

「平和教育と教科書～教科書で戦争と平和を考える～」11 月 15 日（木）～12 月 27 日（木）

後援：京都府教育委員会、京都市教育委員会

◆教科書展開催記念講演会「次世代につなぐ平和教育：平和で民主的な社会の形成」11 月 24 日（土）

共催：平和教育授業研究会

●中学生の「職場体験」事業への協力

附属図書館で図書の配架、装備、カウンターでの貸出・返却等の勤労体験活動

本学附属学校を含む 4 校へ協力（合計 11 日間、11 名）

4. その他

●スマートフォン用図書館アプリの提供を開始（9 月～）

●教育資料館「今月の逸品」 展示協力 附属図書館 1 階渡り廊下



京都工芸繊維大学附属図書館 平成 30 年度特色ある活動の報告

1. KIT ぷらっとお持ち帰りフェア ―古本 0 円祭・専門書からマンガまで―

標記イベントを平成 30 年 11 月 15 日(木)～16 日(金)の 2 日間開催した。当事業は平成 19 年度から継続的に実施しており、図書館で不用となった図書、及び教職員・学生から提供を受けた図書を会場に集め、来場者に無償で提供するものである。平成 30 年度は 2,000 冊以上の図書を提供し、来場者数は 2 日間でのべ 613 名となった。



2. 松ヶ崎祭 特別講演「研究の視点 探求の旅路 バウハウス 100 年」

標記講演会を本学の学園祭期間中の平成 30 年 11 月 23 日(金・祝)に開催した。本学元教授宮島久雄先生、大阪工業大学教授今井美樹先生を講師にお迎えし、2019 年に創立 100 年を迎えるバウハウスの歴史的変遷と今日の姿を、取材写真を交えてお話いただいた。

また、講演後のインタビューでは「宮島先生と本」をテーマに、宮島先生の著書・訳書をご紹介いただいた。



平成 30 年度大阪大学附属図書館の特色ある活動

◆教育・学習支援

1. 附属図書館 4 館全てのアクティブ・ラーニングスペースにおいて、図書館職員の他、ラーニング・サポーター (LS、身分は TA) が学習支援活動を行った。また、LS の学習支援の質をより向上させるため、教員の協力を得て、LS に対する研修 (ライティング支援研修、傾聴法など) を合計 10 回実施し、4 図書館の LS のべ 53 名が受講した。

◆研究支援

1. URA と共催でワークショップ等を開催

経営企画オフィス RA 部門との共同企画・運営で、セミナーや研修を開催し、いずれも盛況であった。

- 「英語論文の作成や投稿をよりスムーズに

-Web of Science 等のツールを活用して」

日 時 : 2018 年 10 月 19 日 (金) 10:30~12:00 (豊中キャンパス)

14:40~16:10 (吹田キャンパス)

講 師 : 辻 幸子氏 (クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社)

参加人数: 合計 167 名 (豊中会場 41 名、吹田会場 126 名)



- 「英語論文執筆スキル強化週間」セミナー・シリーズ

セミナー1「説得力のある英語研究論文を書くコツと図表の効果的な使い方」

2019 年 1 月 23 日 (水) 14:00~16:00 (豊中キャンパス)

セミナー2「エディターの心を動かすカバーレター執筆と査読対応」

2019 年 1 月 24 日 (木) 14:40~16:10 (箕面キャンパス)

セミナー3「英語を母語としない人が間違いやすい論文英語の表現」

2019 年 1 月 25 日 (金) 14:00~16:00 (吹田キャンパス)

講 師: David Kipler 氏 (カクタス・コミュニケーションズ 学術出版トレーナー・コンサルタント)

参加人数: 延べ 311 名

すべて英語で行われた実践的なセミナーであったが、質疑応答も活発で、アンケート結果によると、大変満足度が高いことがうかがえた。



- 大阪大学職員研修「オープンサイエンスの基礎知識: 大学と研究データ」

日 時 : 2019 年 2 月 19 日 (火) 13:30~16:40

講 師 : 林和弘氏 (文部科学省 技術・学術政策研究所科学技術予測センター上席研究官)

青木学聡氏 (京都大学アカデミックデータ・イノベーションユニット)

参加人数: 47 名

オープンサイエンスの概要の把握や課題認識ができたと好評であった。



2. Elsevier 社電子ジャーナル等の前払い PPV (Pay Per View) サービスの試行開始

7 月 17 日より、大阪大学の教職員を対象に、Elsevier 社電子ジャーナル等の前払い PPV (Pay Per View) サービスの試行実施を開始した。

3. 新任教員研修プログラムを実施

大阪大学における研究・教育の質向上に資することを目的に、新任教員研修プログラム「研究・教育の推進に資する図書館の利活用」を前期・後期ともに実施し、合計 45 名の受講があった。

4. 図書館 Web サイトに「投稿先学術雑誌の評価方法」のページを開設

論文投稿先選定の参考になるツール類の紹介など、学術雑誌評価の情報提供と論文を投稿する際の注意喚起などを行うページを開設した。<https://www.library.osaka-u.ac.jp/evaluation/>
また、上記新任教員研修プログラムにおいても、学術雑誌選定について説明を行った。

◆社会貢献

1. 貴重図書画像データのクリエイティブ・コモンズ・ライセンスでの提供

デジタル化して公開している貴重図書画像データの一部について、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスでの提供を開始した。 <https://www.library.osaka-u.ac.jp/collection/>

2. マジックショーを開催

図書館を学生の課外活動の発表の場として提供し学生の主体的活動を支援すること、図書館を身近に感じてもらうことを目的として、図書館イベントの出演団体を学内で公募した。平成 30 年度は、初出演の「大阪大学奇術研究会」に決定した。学外からの参加もあり、楽しく不思議なひとときとなった。

日 時：2019 年 1 月 10 日(木) 18:00～20:00

参加人数：23 名



◆その他

1. (仮称)箕面市立船場図書館の指定管理者に決定

2018 年 12 月 20 日開催の箕面市議会にて、新設される箕面市立図書館の指定管理者として、大阪大学が議決された。

2. 図書館職員研修「公立図書館と大学図書館の共通点と相違点」

日 時：2018 年 11 月 7 日(水) 13:30～17:00

講 師：渡部 幹雄 氏(和歌山大学図書館長)、藤井 亜希子 氏(和歌山大学図書館副課長)
西原 千尋 氏(豊中市立千里図書館)

参加人数：55 名

2021 年 4 月から(仮称)箕面市立船場図書館の指定管理を担うにあたって、よりよい図書館運営の検討を進めるための課題認識ができた。

3. 学生のための図書と設備の充実を支援する基金(大阪大学未来基金)設置

「大阪大学未来基金」のプロジェクトの一つとして、
附属図書館「学生のための図書と設備の充実を支援する基金」を設置した。

<https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/project/library/>

4. 地震、台風への対応

6/18 の大阪北部地震、9/4 の台風 21 号による被害があったが、利用者の安全確保と学習・教育環境の継続を目指し、職員一同が尽力した。10 月末には全館で書架の修理が終了し、全サービスが利用できるようになった。引き続き、来年度は外壁等の復旧工事を予定している。

1. 授業支援

平成 30 年度における最重点課題とした。情報リテラシーガイダンス（本館分館館で計 65 回、756 人参加）のうち、41 回は授業時間内に行った。特に次の 3 つの授業において、授業内容検討および教材作成を担当教員との協力の下に行った。

「教職入門」（前期、1 回生 35 名対象）

「英語科評価論 II」（後期、3 回生 10 名対象）

「教育研究方法演習」（後期、大学院 1 回生 40 名対象）

授業の内容に応じて、レポート等作成支援のため図書館員の「オフィスアワー」を設けたこと、また図書館員に Moodle のアクセス権をつけ、学生の提出物を見られるようにしたことが特徴である。

2. 紀要の全面査読制導入

平成 24 年度より、執筆者が査読を希望する場合のみ査読を行う体制としていた。これにつき、第 2 期中期目標期間の業務実績評価で「紀要のレフェリー制の導入が不十分」とされた結果を受け、平成 29 年度より査読体制の見直しを行ってきた。

平成 30 年度において、査読体制の見直しと関連規程類の整備を完了し、学内周知を行った。

平成 31 年度（2020.2 発行）の紀要から新制度での刊行となる。

新制度では、投稿原稿の種類を「学術論文」「実践報告」「その他」とし、「学術論文」はすべて査読を行うこととした。

3. 旧教科書デジタル化事業

図書館振興財団助成金約 360 万円を獲得し、平成 28～30 年度にかけて、本学所蔵の「旧教科書」（往来物・明治初年教科書）のデジタル化を実施した。デジタル化した 316 冊を本学リポジトリで公開中。

事業の締めくくりとして、記念展示「教科書オーライ展」を行った（10/26-11/3）。現物とレプリカ（デジタル画像のプリントアウトによる）の展示、デジタル画像のプロジェクター投影、教科書画像を利用したブックカバー等の配布を行った。

4. 図書館調査

教学 IR の学生アンケートに、図書館に関する設問を追加した。単発で図書館利用者アンケートを実施するより、経年変化や、修学・就職等の調査項目との関連が分析できるようになることを期待している。

教務課との調整の結果、2～4 回生および卒業時調査についてカバーできたが、新入生調査が未対応のため、継続的に検討する。

5. サポートスタッフによる学習支援

平成 30 年度も院生スタッフによるサポートデスクを設置した（開講期・週 3 人・年間計 101 回）。スタッフ在席時間時間のツイートやデスク設置場所の工夫により利用者増を図ったが、利用は低調であった。サポート人員の確保も困難である。次年度は留学生向けのサービスを検討する。

イベントとして、講習会「レポートの書き方講座」を 7 月に 2 回開催した他、ICT 支援ルーム学生スタッフの協働で、ライティングとプログラミングに関する講習会「ゼロからはじめるスキルアップセミナー」を開催。（12 月計 9 回、学生等 25 人参加）

6. イベント

- ・ 学生団体と共催で人権週間行事「リビング・ライブラリー」を開催。（12 月開催、のべ 110 人参加）
- ・ 情報処理センター教員を講師とし、学生支援に資する学内 FD 事業「電子黒板を使いこなす」を開催。（12 月開催、教職員等 24 人参加）

7. 学外機関との連携

- ・ 国立国会図書館「視覚障害者等用データの収集および送信サービス」に参加するため、同館と覚書を締結。（10 月）
- ・ 国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」に参加。（申請承認済み、H31 サービスイン）
- ・ リポジトリ掲載論文に JaLC DOI の付与。（申請中、H31 付与開始予定）

8. 高大連携

- ・ 高大接続や附属学校図書室との連携の可能性を探るため、本学附属 3 中高の司書教諭・図書室職員との懇談を行った（1～3 月）。教育実習生への図書配送や、生徒向けの複写・貸借等サービス実施について検討中。
- ・ 授業「課外活動指導法」において、府内公立高校生の探求授業を本学学生が指導するためのサポートを行った。（10 月）
- ・ 府内公立高校生を対象に、天王寺キャンパスの授業を受講できる連携事業があり、受講生に図書館利用の案内をしている。（3 月実施の連携事業ガイダンスに参加）

9. その他

2019 年 4 月から、一部昼間コースが天王寺キャンパスに移動する。このため、従来 13 時からの開館であった天王寺分館を 10 時開館とした（授業は 2 限 10:35 開始）。派遣職員 1 名を非常勤職員に変更し、定員（係長）1・非常勤 2・派遣シフト数名の体制とした。

兵庫教育大学附属図書館 平成 30 年度活動報告 (H31. 4)

1 附属図書館

(1) イベント

① Blue Class **NEW !**



ラーニングコモンズを屋外に展開する野外図書館企画 BLUE CLASS を開催。第 1 回は無料古本市とカフェイベント (約 200 名参加)。その活動報告を第 20 回図書館総合展ポスターセッションで行った。

② ランチタイム・コンサート



オープンテラスにて、コンサート「初夏に歌う」(声楽専門の教員と学生が出演)開催(60 名参加)。

③ 兵教シネマ



ライブラリーホールにて、芸術系教員監修による映画上映会(全三夜)を開催(34 名参加)。その他、授業の一環による映画会も開催。

④ ライブラリーフェスタ



大学祭に併せた図書館恒例イベント。絵本読み聞かせ、学生ミニコンサート、映画上映会、無料古本市を開催(475 名参加)。

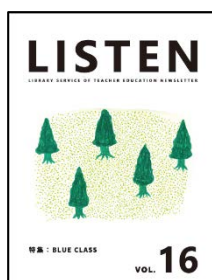
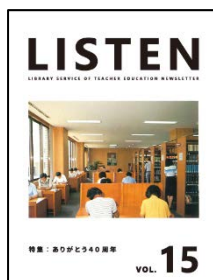
⑤ 展示活動

エントランスやラーニングコモンズの壁面を使い、期間限定の図書企画展示を開催。
テーマは、新生活・料理・追悼かことし・映画原作本・そうだ旅に出よう・納涼本・祭り・宇宙へようこそ・おいしい絵本・防災を発見・美しき表現の国東欧チェコに出会う



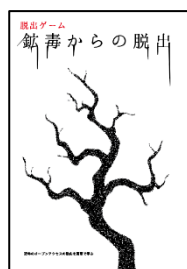
(2) 広報

① 附属図書館広報誌 Listen (年2回刊行)



特集：ありがとう 40周年 特集：BLUE CLASS

② オープンアクセス啓発資料 **NEW!**



オープンアクセスの近年の動向を寓意化した漫画形式の脱出ゲームを作成し教員に配付（原作は上越教育大学附属図書館）。

(3) 情報リテラシー教育

① 図書館ツアー (4/9・10)

② 初年次セミナー(4/22・5/7・5/21)

③ 文献探索講習会 (5/22～25)

主に新入学生を対象とした OPAC・CiNii・Mendeley 講座

④ 留学生対象オリエンテーション (10/17)

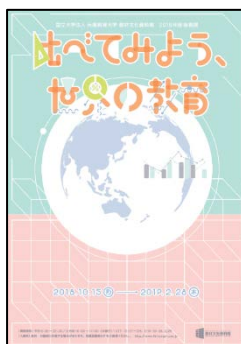
⑤ 神戸ハーバーランドキャンパス学生向け講習会及び相談会(5/26・28～29)

2 教材文化資料館

(1) 前期展 (H30.4～8) 「実験！観察！体験！」展



(2) 後期展(H30.10～H31.2)「比べてみよう！世界の教育」展



関連イベントとして、インドから講師を招聘し、講演会「インドの算数教育」を開催（47名参加）。

平成30年度 神戸大学附属図書館活動報告

1/4

学修サポート

■初年次セミナーで図書館ツアー・ガイダンスを実施

大学のクォーター制導入に伴い、平成28年度より実施。
平成30年度は8学部に対し計48回実施した。
(参加者数:1,393名 前年度は7学部計38回で1,027名)

■「学生選書ツアー」、「POPワークショップ」の実施

平成22年度より毎年実施。
平成30年度は6月に実施し、20名参加。(前年度は16名)
選定された図書は毎年非常に良く利用されている。また選定された図書へのPOPワークショップをあわせて開催し、総合・国際文化学図書館に展示した。

■「読書マラソン企画」の実施

平成30年度初めて企画、実施した。参加者は対象資料を1冊読むごとに読書カードを提出し、スタンプを集める。
スタンプ15個で完走とした。完走者は6名。熱心な感想も多く見られた。
実施期間:10月1日～12月21日
読書カード:170枚提出

■「神大図書館お昼休みトークイベント2019『多言語・多文化への冒険』(3回シリーズ)」

平成29年度に続き企画。総合・国際文化学研究科の教員と協力し、3回シリーズで開催。あわせて講師推薦図書および職員選定の関連図書を展示した。
お昼休みの短い時間ながら立ち見も出る盛況となり、アンケートでも好評を得た。(参加人数総計:のべ71名)

【各シリーズ内容】

- ①「政治的正しさに抗う:タモリの4ヶ国語麻雀から調査現場での擬態言語コミュニケーションまで」
- ②「ホームから宇宙へ:グローバル化と文化人類学者の漂流の軌跡」
- ③「モンゴル留学の勧め」
(1月17日、21～22日開催、各回とも講師は教員)

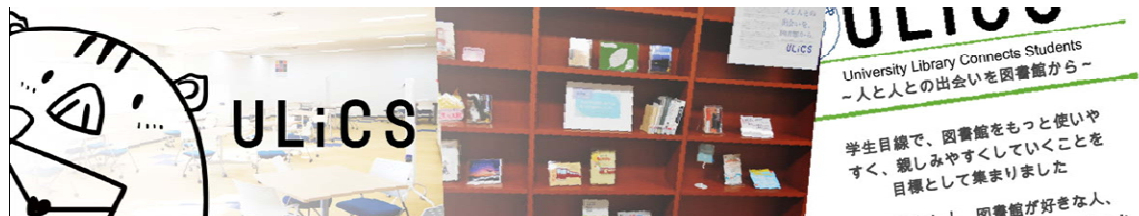
■蔵書のテーマ展示

平成29年度に続き、各館室でのテーマ展示に加えて学生選書ツアー選定図書の「巡回展示」を実施し好評を得た。
(巡回期間:2018年9月～2019年3月、7館室を巡回)



学修サポート

■附属図書館学生チーム「ULiCS(うりくす)」の活動



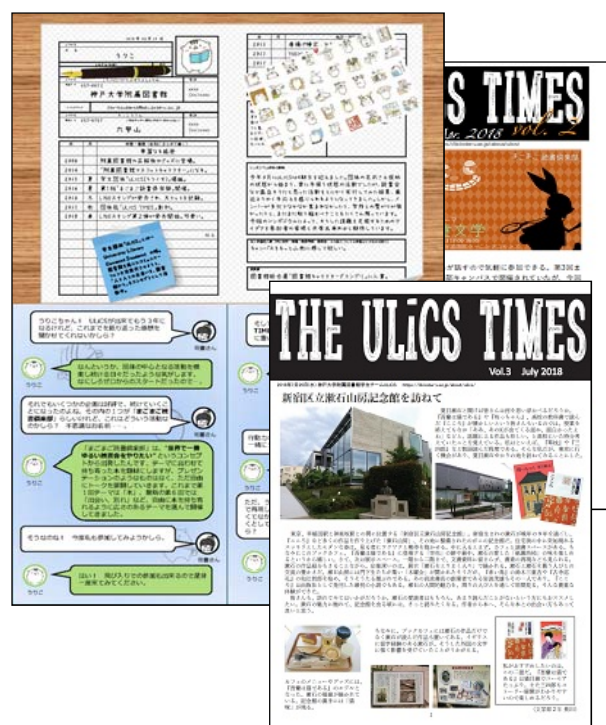
学生と教職員の「学生協働」のチームとして、平成27年度留学生・院生を含む9名で発足。「University Library Connects Students」のコンセプトから「ULiCS」と命名。結成4年目となる平成30年度は、19名で下記のような活動を行った。

― 第8回大学図書館学生協働交流シンポジウム(広島大学)への参加

9月6～7日、広島大学で開催された第8回大学図書館学生協働シンポジウム「学生と共に成長する図書館―協働が生み出す新しい魅力―」にULiCSメンバー2名と図書館職員1名が参加、活動紹介や意見交換を行った。

―「THE ULiCS TIMES」の発行

ULiCSの団体誌として「THE ULiCS TIMES」Vol2, 3, 4を発行した。学内の各図書館での配布のほか、附属図書館HPからPDF公開している。



―「まごまご読書倶楽部」の開催

あらかじめ決められたテーマに即した本を持ち寄り、それらについてまごまご話すという「まごまご読書倶楽部」を開催している。平成30年度は第5～8回の4回開催。

- 第5回: テーマ「自己紹介代わりの本」(4月19日) 於: 鶴一LC
- 第6回: テーマ「出会い、別れ」(6月28日) 於: 人文図LC
- 第7回: テーマ「おススメしたくない本」(10月22日) 於: 総合・国際図
- 第8回: テーマ「-fulness: 世界は〇〇で満ちている」(1月11日) 於: 人文図LC



社会連携・情報発信

■ ハーバード大学ライシャワー日本研究所と
デジタルアーカイブの連携に関する覚書を締結

10月1日、神戸大学附属図書館とハーバード大学
エドウィン・O・ライシャワー日本研究所とで締結した。
この連携により、当館デジタルアーカイブ「震災文庫」で
提供する資料情報が、東北大学震災アーカイブ
「みちのく震録伝」を介してハーバード大学
「日本災害DIGITALアーカイブ(JDA)」上で横断検索
可能になる予定である。



■ JPCOARスキーマ説明会(関西会場)

神戸大学が関西地区会場となり開催。
図書館職員やシステムベンダーなど約90名が参加した。

開催日: 9月6日
会 場: 神戸大学瀧川記念学術交流会館大会議室

■ 平成30年度国立大学図書館協会シンポジウム
「大学図書館デジタルアーカイブの活用に向けて」

神戸大学が会場となり開催。
図書館職員を中心に、研究者やデジタルアーカイブ
学会員など145名が参加した。

開催日: 10月19日
会 場: 神戸大学百年記念館(神大会館)六甲ホール

■ 平成30年度資料展「古典籍さまざま
～近世の出版物より～」

毎年、図書館所蔵資料を利用した展示会を実施している。
平成30年度は、江戸期の出版物に焦点をあて、
特に科学・技術と文学・戯作の分野におけるその様子を、
本館所蔵の古典籍を中心に紹介。あわせて同時代の
西洋の図書も展示した。
(10月12日～12月18日、於: 社会科学系図書館)



■ 企画展、サテライト巡回展の実施

人文学研究科地理学教室、神戸大学海事博物館、大学文書
史料室と連携し、企画展やサテライト巡回展を開催している。
平成30年度は下記を開催した。

- ・海事コレクション展「古写真からたどる深江」
(7月30日～9月28日)
- ・企画展「災害の記憶を伝える: 神戸の地震、風水害」
(1月10日～2月4日まで延長)
- ・神戸大学史・巡回展「明治期の神戸と神戸大学」
ー『明治150年』記念ー(2月6日～3月2日)
- ・「和船の活躍した時代」(3月8日～5月まで延長予定)



職員の海外派遣、職員研修会

■COAR Annual Meeting 2018 への参加

JPCOAR作業部会からの派遣依頼を受け、職員1名を「COAR Annual Meeting 2018」へ派遣した。

期 間:5月13日～19日
派遣先:ハンブルク(独)

■JISC(英)・Abes(仏)の視察

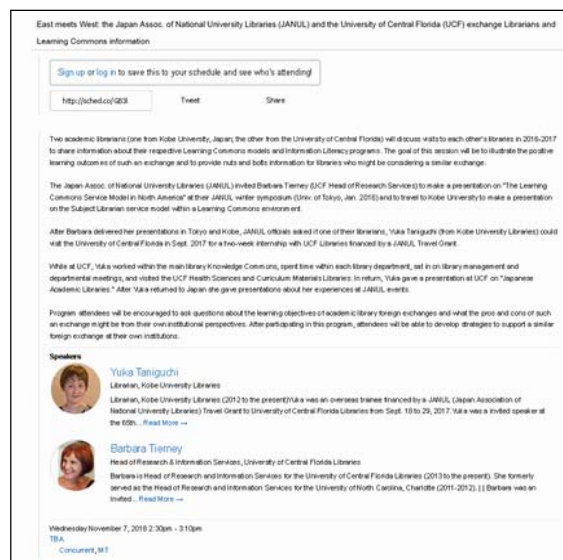
国立情報学研究所電子リソースデータ共有作業部会からの依頼を受け、職員1名がJISC(英国の大学図書館コンソーシアム)・Abes(仏国の大学図書館コンソーシアム)を視察した。

期 間:9月16日～20日
派遣先:ロンドン(英)、モンペリエ(仏)
テーマ:「統合的運用・発見基盤に関するOCLC製 Central Bibliographic System(CBS)を用いた 総合目録データベースの構築・運用に関する調査」

■2018 Charleston Library Conferenceでの共同発表

平成29年度国立大学図書館協会海外派遣事業での受入先 University of Central Floridaからの依頼を受け、職員1名を派遣、2018 Charleston Library Conference に参加し、University of Central Florida と共同発表を行った。

期 間:11月4日～11日※発表は11月7日
派遣先:チャールストン(米)
テーマ:「East meets West: the Japan Assoc. of National University Libraries(JANUL) and The University of Central Florida(UCF) exchange Librarians and Learning Commons information」



■附属図書館職員研修(海外派遣報告会)

12月11日に附属図書館職員研修を開催し、11月までに海外派遣された職員3名がそれぞれの成果を報告した。

■国立大学図書館協会海外派遣事業(短期)

平成30年度国立大学図書館協会海外派遣事業(短期)の助成を受け、職員1名を米国に派遣した。

派遣期間:1月21日～27日
派遣機関:University of Oregon、University of Portland
Pacific Northwest College of Art
Seattle Public Library、University of Washington

調査テーマ:「大学図書館空間とその建築プロセスにおける図書館員の役割: 米国の図書館建築プロジェクト事例から」



1. ラーニング・コモنزの授業活用

ラーニング・コモنزやえほんのひろばの有効活用として、授業利用の推進を各教員に呼びかけ、多くの授業や授業イベントに活用された。美術教育イベント「コンセプチュアル奈良」(7/11)、音楽教育イベント「打楽器ワークショップ」(10/11)、留学生による世界の絵本の読み聞かせ会(7/11)など、様々な授業関連イベントが図書館内で開催されるようになってきた。

また、Windowsクラスルーム協議会と協同した現職教員向けの研修会(7/27, 8/9, 9/29)や、カンボジア国教員養成大学設立のための現職教員研修(9/11-27)、奈良県教育委員会と協同した高校生向けの次世代教員養成塾(10/6, 2/9)など、学内外の交流の場としても活用の幅が広がっている。



2. 授業関連図書コーナーのレベル付け

シラバス掲載図書と各学問分野の初学者が最初に読んでもらいたい図書を揃えた授業関連図書コーナーについて、図書館運営委員会委員の協力のもと、それぞれの専門分野の図書について「初級」「中級」のようにレベル付けを実施した。レベル付けされた図書には「初級」等のシールが貼られ、一部の本の帯には教員からの推薦コメントを掲載している。また、レベル付けされた学問分野についてはブックガイド「〇〇の本棚(ex. 心理学の本棚、英語教育の本棚)」を作成し学生に配布した。



3. 英語コーナーの充実化

小学校英語の教科化・必修化に備え、英語学習環境を整えるため、昨年度設置した英語コーナーに、TOEIC等の英語能力テストの教材やリージョンフリーDVDプレイヤーを整備した。



4. 図書館ガイダンスの充実化

1年生対象の必修授業「大学での学び入門」に今年度から研究倫理教育も盛り込み、図書館ガイダンスとともに実施することとなった。

5. 授業と連動した展示の開催

学部・大学院授業と連動して、学生が企画・準備した「奈良教育大学所蔵 東西の装飾本」展(7/20-24)や博物館実習成果報告展「やるしかない展―筆と着物と紙袋と鹿―」(12/7-19)、美術教育専修・文化遺産教育専修卒業・修了展覧会(2/28-3/4)を図書館ラーニング・コモンズ及び展示スペースで開催した。



6. 学生との協働

学生サポーター企画として11月2日に「経験者が語る 卒論の書き方講習会」を開催した。卒論執筆経験者である大学院生が学部生に向けて、卒論作成の計画の立て方や気をつけるべきポイントなどを話した。



また、学生参加型の蔵書構築を目指して本年度は2回のブックハンティングを実施した。

7. 古本募金の開始

本を通じた地域社会との連携、自己収入策の一環として2018年10月より古本募金を開始した。



8. ブック展示企画

学生の自主学習の幅を広げ、図書館の様々な蔵書に興味を持ってもらえるよう、下記のテーマでブック展示を行った。

- ・「新入生におすすめの図書」(4/4~5/15)
- ・「教育実習」(5/18~6/29、学生サポーター企画)
- ・「You are what you eat」(6/4~7/9)
- ・「学校と防災～命を守るために」(10/10~10/30)
- ・「卒論・レポートを書こう！」(11/1~11/30、学生サポーター企画)
- ・「ブックハンティングで選んだ本」(12/5~1/9)
- ・「2018 Anniversary year writers ― 2018年が節目の作家特集 ―」(12/7~12/21)
- ・「先生になるまえに」(2/13~3/15)



平成 30 年度 奈良女子大学学術情報センター 特色ある活動の報告

1. 図書館振興財団助成事業

「奈良女子高等師範学校教材資料群デジタルアーカイブ事業」
「正倉院模造宝物」49点、「おもちゃ」298点

ADEAC (アデアック) で公開 (2019年2月28日)

<https://trc-adeac.trc.co.jp/>



正倉院模造宝物



おもちゃ

2. 国立国会図書館の利用講習会

講師：国立国会図書館関西館 大塚和美氏

開催：平成 30 年 11 月 20 日

場所：学術情報センターラーニングcommons

参加：17名



講習会



展示

3. 図書展示

4月 「大学生事始」

6月 「卒論・修論応援フェア」

7月 「夏コレ ～Summer Collection～」

10月 「〇〇の秋」

12月 「学術情報センターに置いてほしい本 シール投票」

得票の多かった本 123 冊を購入して展示



好評

4. 学術情報センター設備整備

●展示書架の新設、新着図書コーナーの移設



●案内板の更新・新設



●自動貸出返却装置の更新

●グループ学習室 什器更新

5. 機種更新 (2019年2月1日)

新 OPAC (蔵書検索)

更新機器：パソコン (55 台)

プリンタ (4 台)

大型プリンタ (1 台) 等



新 OPAC

和歌山大学図書館 平成 30 年度特色ある活動の報告

2019 年 4 月 22 日

1. 知の共有：＜蔵書＞を超えた知識や情報の共有

1) 教育研究成果の発信、オープン化と保存

- ① リポジトリシステムを更新 (Earmas Ver. 3) し、機能の充実とデザインをリニューアル
- ② オープンアクセスウィークの全学に向けた広報 (2018.10)

2) 出版された資料の整備と利用

- ① 「学生用図書整備 5 ヶ年計画 (2017-2021)」に基づく学生用図書の整備
- ② 図書館の下に大学史資料室を設置し、収集、整理済の本学の歴史に関する資料の目録や関係規則を公開 (2018.10)

3) 知識や情報の発見可能性の向上

- ① 貴重資料のデジタル画像の利用を促進するため、CC ライセンス (CC BY-SA) での提供を基本とする「デジタルアーカイブの利用条件表示に関する取扱い要項」を制定 (2018.12)
- ② 貴重資料のデジタル画像の公開を進めるため、国文学研究資料館と「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画におけるデータベース構築に関する覚書」を締結 (2019.2)
- ③ 図書館ウェブサイト更新ガイドラインの策定し、サイトをリニューアル (2019.1)
- ④ 図書館システムを更新 (NEC E-CatsLibrary Ver.6) し、OPAC の機能強化等を実現 (2018.9)
- ⑤ ラーニング・アドバイザー (大学院生スタッフ) が図書館ツアー動画を制作し、図書館ウェブサイト及び学内デジタルサイネージで公開 (2018.5)

2. 知の創出：新たな知を紡ぐ＜場＞の提供

1) 知を創出する場の拡大・整備・提供

- ① 学修支援環境の改善を目的として、図書館設備の整備計画を策定 (2018.12)
- ② サイレントゾーンの新設 (2018.10)
- ③ ラーニング・コモンズエリアの拡張、常設のプレゼンスペースや窓際カウンター席の設置 (2019.3)

2) 社会に開かれた知の創出・共有空間の提供

- ① 和歌山大学図書館フォーラム「自分たちの図書館をつくる」を開催し、和歌山県内の図書館関係者 43 名が参加 (2018.6.20)
- ② 和歌山地域図書館協議会の活動の一環として、加盟各館において和歌山城天守閣再建 60 周年を記念した資料展示 (2018.7.14～8.26) を行うとともに、フォーラム「ゴジラと原子力～映画に描かれた原水爆と原発～」を開催 (2018.11.17 和歌山信愛女子短期大学)
- ③ 県内自治体との連携協力・地域支援活動 (和歌山県、橋本市、紀の川市、串本町、那智勝浦町)
- ④ 地域住民等との交流や研究成果を発信できるスペースを含む図書館カフェをオープン (2019.3)

3. 新しい人材：知の共有・創出のための＜人材＞の構築

1) 新たな人材の参画

- ① 学生サポーター（学部学生、大学院生 19 名）
 - ・新入生歓迎企画展示「付度はじめました」（2018.4）
 - ・オープンキャンパスでの図書館ツアー（2018.7）
 - ・選書ツアー（2018.11）への参加と選書した図書の企画展示「ワダイの奇妙な選書ツアー【読書の旋風】」（2019.1）
- ② ラーニング・アドバイザー（LA 大学院生 10 名）
 - ・ラーニング・コモンズでの学習相談（2015.10～）
 - ・LA による選書及び展示
 - ・LA ミニ講習会の開催
 - 「紀美野においなーよ！」（2018.11.20）
 - 「正しいメール 書けてますか？」（2018.12.5）
 - 「和太生が入学してから卒業するまでの税金の話」（2018.12.12）
 - 「初心者向け EXCEL 講座」（2018.12.19）

2) 国立大学図書館職員の資質向上

- ① 職員が企画、講師を担当し、図書館職員研修会を開催
 - 「図書館システムを知る」（2018.6.19）
 - 「電子資料を知る～利用者サービス提供の観点から～」（2018.8.27）
 - 「オープンアクセスとりポジトリを知る」（2018.9.28）
 - 「NACSIS-CAT の今後」（2019.3.5）
- ② 図書館提案による平成 30 年度国立大学協会近畿地区支部研修及び和歌山大学 SD 研修「アサーティブコミュニケーション研修」が開催され、図書館から職員 9 名が参加（2018.7.29～31）

平成 30 年度 奈良先端科学技術大学院大学の特色のある活動報告

1. 修士論文・博士論文の取り扱い

平成 30 年度より本学は「情報科学研究科」「バイオサイエンス研究科」「物質創成科学研究科」の三研究科を一研究科に統合し、「先端科学技術研究科」が設置された。

これまで、学位論文の取り扱いは三研究科毎に異なる対応を行っていたが、統合に伴い、全学共通の新たな方針を策定することとなり、ワーキンググループにて検討のうえ、新研究科学生を対象とした「奈良先端科学技術大学院大学における学位論文の保管・公表について」を平成 31 年 1 月 15 日に教育研究評議会の承認を得た。

本学では、開学当初より博士論文・修士論文の電子化を進めており、公表が義務付けられている博士論文だけではなく、修士論文についても本取扱いに含まれている。

また、修士論文について、これまでは紙媒体での保管を行ってきたが、今後は電子データで保管することとなった。博士論文については、インターネットによる公表が義務化された際に先行して電子データでの保管を行っている。

本学では学位論文提出システムを稼働しており、学生自身が完成した論文を投稿、メタデータの付与を行うことで効率化を果たしている。これまでは公表する論文を対象としてきたが、同システムを論文の網羅的収集に活用する予定である。

2. 図書館ホームページの見直し

図書館ホームページ全体の見直しを行い、更新の滞っていた箇所や過去のイベント情報の整理を行った。また、記載内容によって使い分けをしていたページ毎のテーマカラーを見直し、カラーユニバーサルデザイン推奨配色セットなどを参考にすることによって調整を行い、視認性の向上を図った。

3. 知の森コーナー

学内から募集したテーマや図書館職員が設定したテーマに沿った資料を選び、「知の森コーナー」として展示をしている。

平成 30 年度は下表の通りのテーマで計 3 回の展示を行った。



平成 30 年度知の森コーナー展示企画一覧

実施回	実施時期	テーマ	展示タイトル数
第 22 回	2018 年 3-6 月	ひとつに	30
第 23 回	2018 年 7-10 月	夏だ！海だ！知の森だ！！	27
第 24 回	2018 年 11 月-2019 年 3 月	空気・雰囲気	28

平成 30 年度 国際日本文化研究センター図書館活動報告

1. OCLC WorldCat への追加登録と OCLC WorldShareILL への参加

H29 年度に登録を始めた OCLC WorldCat へ、H29 年度後半から H30 年度にかけて増加した書誌・所蔵レコード約 1 万件を追加登録した。

また、H30 年度より OCLC WorldShareILL にも参加し、海外の日本研究機関等との ILL を開始した。



2. 海外邦字新聞データベースの公開



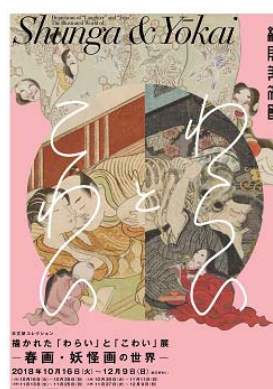
所内限定コンテンツであった、『日米』紙（1919-32 年、サンフランシスコ）のデータベースについて、原本所蔵機関の許諾を得、H30 年 4 月に一般に公開した。今後も、『聖州新報（SeishuShimpo）』、『日伯新聞（NippakShimbun）』、『ブラジル朝日新聞（BrasilAsahi）』、『南米新報（NambaiShimpo）』、『バストス週報（BastosShuho）』、『亜爾然丁時報（ArgentinDjijo）』などの 20 世紀初頭の海外日本人移民史料として貴重な海外邦字新聞の電子化データを順次公開していく予定である。

3. 美術館・博物館等における図書館所蔵資料出張

■「日文研コレクション 描かれた「わらい」と「こわい」展 - 春画・妖怪画の世界 -」

（細見美術館、10 月 16 日～12 月 9 日）

日文研所蔵の妖怪画・春画のコレクションのうち、「わらい」と「こわい」のテーマのもと、約 150 点を選んで展示。



■「吉田初三郎鳥瞰図へのいざない」

（大阪市立中央図書館、11 月 2 日～14 日）

日文研所蔵の「吉田初三郎コレクション」のうち、大阪から東アジアまでの鳥瞰図を展示。

■「おいしい広告 2」

（京都工芸繊維大学美術工芸資料館、12 月 27 日～2 月 23 日）

日文研所蔵の『森永月報』（1923-1926）を展示。



4. IIF ワークショップの開催

11月6日（火）、永崎研宣氏（日文研客員准教授・人文情報学研究所主席研究員）を招き、IIF に関する講演・コンテンツ担当者懇談会・システム担当者懇談会の三部構成のワークショップを開催した。日文研教職員だけでなく、他大学の図書館職員の参加もあり、他機関の取組状況を知る機会ともなった。



5. 図書館司書課程に関わる「図書館実習」への協力

8月28日（火）～8月31日（金）の4日間、同志社大学の図書館司書課程の「図書館実習」に協力し、実習生2名を受入れて、各種図書館業務についての実習を実施した。なお、当該協力はH30年度で7年目となる。

6. EAJRS（日本資料専門家欧州協会総会）2018 への参加



リトアニアのヴィータウタス・マグヌス大学で9月12日から15日にかけて開催された「第29回日本資料専門家欧州協会（EAJRS）年次集会」に、日文研図書館から資料利用係長が参加した。『日文研における国際 IIL/DDS の新サービス：展望と課題』の論題で、日文研図書館が参加している OCLC WorldCat および WorldShareILL の概要・経緯・課題等について発表した。また、会場内でのブース出展、ワークショップでのプレゼンテーション等も実施し、欧州の図書館司書・日本研究者らとの交流を深めた。

7. CEAL（東アジア図書館協会）・NCC（北米日本研究資料調整協議会）の年次集会への参加

日文研図書館から電子情報係長および資料利用係長の2名が、3月19日から21日にアメリカ・コロラド州デンバーで開催された CEAL（東アジア図書館協会）・NCC（北米日本研究資料調整協議会）の年次集会に参加した。期間中、CEAL の ILL・DD（文献の貸出・複写に関する図書館間協力業務）に関する委員会代表者と日文研における海外 ILL サービスの現状等についての情報交換、アウトリーチプログラム（日本研究司書のいない大学の日本研究者をサポートする活動）のためのグループミーティング等の情報交換活動をおこなった。海外の司書・日本研究者と直に情報交換を行う貴重な機会と、海外の日本研究者のサポートや日文研の研究成果・リソースのアピールについての知見を得ることができた。



平成 30 年度 国立民族学博物館図書室活動報告

1. サービス

一般利用者の図書室休室日の返却開始（平成 30 年 11 月～）

図書室が休室で博物館が開館している日に、博物館 1 階受付で図書を返却できるサービスを開始した。

2. 図書室見学・案内

外来研究員オリエンテーション / 総研大生オリエンテーション / 事務系新任職員等研修 / 総研大オープンキャンパス / JICA 委託事業「博物館とコミュニティ開発」 / みんなく若手研究者奨励セミナー など。

3. 資料の整備

- ・購読雑誌について、教員への調査に基づき 1 タイトルを中止とし、2 件のデータベースと 7 タイトルを新規購読した上で経費は 25 万円節減した。
- ・以下の電子資料を購入した。
 - ・The international encyclopedia of anthropology(人類学国際大百科事典)
- ・冊子体については、モンゴル語・アラビア語等特殊言語の遡及入力を行った。マイクロ資料については、原資料が北米の大学の博士論文であるもの 1,005 件、図書 2,127 件、新聞雑誌 8 タイトル(376 件)の遡及入力を行った。
- ・出版者から提供される機械可読目録(MARC)を取り込める環境を整え、約 68,000 件の電子ブックを OPAC で検索できるようにした。
- ・書庫 2 層・3 層を中心に約 22 万冊の蔵書点検を行った。

4. 資料の貸付

平成 30 年 8 月 国立台湾歴史博物館（台南市）で開催の特別展「南方共筆：継承される台南風土描写」へ、研究アーカイブズ資料（内田勲アーカイブ）を貸付。

5. 研究アーカイブズ資料の受入・目録公開

平成 30 年 4 月 「江ロー久アーカイブ」寄贈受入（フィールドノート、映像・音声資料）

平成 30 年 5 月 「内田勲（いさお）アーカイブ」寄贈受入
（民族資料、フィールドノート、写真アルバム等）

平成 30 年 9 月 「丸谷彰・朽木村針畑生活資料アーカイブ」目録公開
（民俗資料、記録映像資料等）

平成 30 年 12 月 「江ロー久・アフリカ-アジアの言語アーカイブ」目録公開

平成 31 年 1 月 「栗田靖之-別府春海・日本人の贈答アーカイブ」目録公開
「沖守弘・インド民族文化資料アーカイブ」目録公開

平成 31 年 2 月 「内田勲・1930 年代台湾および日本を中心とした東アジア文化アーカイブ」
目録公開

平成 31 年 3 月 「小林保祥（やすよし）-台湾南部原住民族アーカイブ」目録公開

6. 職場体験活動の受入

博物館が受入れる職場体験活動の一環で、図書室での業務を体験してもらった。

日程：平成 30 年 10 月 17 日（水）、11 月 9 日（金）

人数：各回 2 名

内容：カウンター業務、マイクロリーダーの操作、納庫作業、図書・雑誌受入業務、リポジ
トリ登録 など。

7. 地震による臨時休室および落下資料の復旧作業

平成 30 年 6 月 18 日に発生した大阪府北部を震源とする地震により、書庫内資料約 82 万冊の
うち約 21 万冊が落下。

6/18～8/22 臨時休室

6/26～8/2 書庫内落下資料の復旧作業

7/17～8/3 館内者のみ、階ごとに利用再開（職員による出納方式）

8/6 館内者のみ、通常利用再開

8/23 図書室全面再開

落下資料の復旧作業には、国際日本文化研究センター図書室、総合地球環境学研究所図書室
の方々にもご協力いただいた。



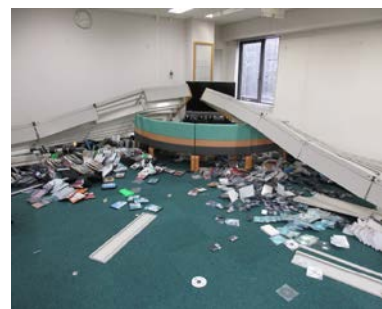
地震直後のようす



復旧作業のようす



地図資料室



視聴覚室

8. 防災訓練

（第 1 回）

平成 30 年 9 月 25 日（火）博物館内で実施。（地震想定）

図書室に初めて避難者役（視覚障害者含む）を配置して行った。

（第 2 回）

平成 31 年 3 月 12 日（火）博物館内で実施。（火災想定）

図書室に避難者役を配置して行った。